

資料 5 - 3

トキの生息環境を再生する
(トキ再発見 30 周年記念ワークショップ (H23.5.24) での講演概要)

新潟大学大学院自然科学研究科 関島恒夫

2008 年 9 月 25 日、新潟県佐渡島において、わが国で一度野生絶滅したトキが定着に向けて再度放鳥された。再導入されたトキは、環境省が保護区とした小佐渡東部地域に再定着せず、佐渡島内を広域に分散した。われわれは小佐渡東部地域からトキが分散していく可能性を考慮し、放鳥以前から佐渡島全域を視野に入れ、景観レベルから局所レベルに配慮した自然再生計画の立案を進めてきた。再生計画の立案にあたり、はじめに、景観レベルからトキの潜在的餌生物量と潜在的営巣適地の情報に基づき自然再生重点地域を抽出した上で、次に抽出された地域に対して局所レベルで具体的な自然再生計画を描くという階層的アプローチを採用した。その結果、自然再生を効率的に進めるべき場所として、加茂湖周辺や、大佐渡・小佐渡と国仲平野との山際部など島内数カ所が適地として抽出された一方、小佐渡東部地域は必ずしもトキの生息適地とは言えないことが明らかとなった。また、局所レベルの再生として、水田魚道の設置、江の創出、放棄水田の湛水化など、佐渡市が「生き物を育む農法」として選定している手法は、いずれも生物量増加に大きく貢献することが示された。これらの結果に基づき、生態系ネットワークの再生に配慮した具体的な局所再生案を提案した。現在、上述した自然再生の推進を図るために、トキの採餌環境となる農地を対象として関連組織との連携体制の強化に取り組むとともに、「朱鷺と暮らす里づくり」認証制度を活用した農地の順応的管理システムを構築しており、その取り組みは佐渡市が提唱する「環境と経済の好循環システム」に大きく寄与できると期待されている。